

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K11761

研究課題名(和文) 看護学生と地域高齢者との世代間交流プログラムがもたらす効果に関する研究

研究課題名(英文) Effects of an intergenerational exchange program between nursing students and community healthy elderly

研究代表者

張 平平 (Zhang, Pingping)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：90436345

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は看護学生と地域高齢者との世代間交流プログラムの効果を検討することであった。平成27～29年度に5名の看護学生と30名の地域高齢者との交流活動を月1回程度、毎回2時間実施した。毎回の交流活動が終了した後、地域高齢者と看護学生へのアンケート調査を行った。交流活動への参加に対する高齢者の満足度は92.6%であった。また、アンケート調査において、高齢者からは【看護学生との交流の良さ】【看護学生への理解】【交流活動の継続希望】の評価を、看護学生からは【地域高齢者への理解】【地域高齢者がもつ知恵への感知】【世代間交流の意義への認識】の評価を得られたことで世代間交流プログラムの効果が示された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the effects of an intergenerational exchange program between nursing students and community healthy elderly. The program was used to exchange activities monthly, five nursing students and 30 community healthy elderly talked about health management methods, played games, or exercised together for approximately 2 hours. After the activities, a questionnaire was given to all participants. The satisfaction rating of the elderly was 92.6%. In the description comments of the elderly, positive effects such as [positive interaction with nursing students], [understanding the situation of nursing students] and [expectation to continue exchange activities] were indicated. In the nursing students, [understanding the community elderly] (e.g., grasping mental and lifestyle changes with age and community features) and [understanding the meaning of intergenerational exchange] (e.g., learning about each other for health promotion) were shown.

研究分野：老年看護学

キーワード：世代間交流 地域高齢者 看護学生

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会における保健医療福祉分野の問題や課題が多く存在する中、老年看護学教育に求められる内容も社会情勢に応じて変えていかなければならない。特に、平均寿命世界一の日本では健康寿命の延伸が国民健康づくりに関する健康増進対策(健康日本21(第2次))として新たに打ち出されたため¹⁾、健やかな暮らしを一日も長く送ることができるよう地域で生活する元気高齢者へのケアアプローチが極めて重要である。また、高齢化率が急激に上昇する中、高齢者の社会参加活動促進のために、高齢者と若い世代との連帯を深め、希薄化している地域の絆をすべての世代で再生することも必要と提言されている²⁾。なお、看護学生と地域高齢者との世代間交流は、地域における高齢者の出番や活躍の場の拡大及び地域の活性化につながるだけでなく、地域高齢者の老人力(知恵・経験・技)を学生に継承する上でも極めて重要である。また、文部科学省より出された「学士課程版看護実践能力と到達目標」³⁾の1つである『地域の特性と健康課題を査定する能力』が求められるため、看護学生が地域及び地域で生活する高齢者との接点をもつことは意義が大きいといえる。このため、未来の看護の役割を担う看護学生が学生時代から自ら地域との接触や地域高齢者との関わりを予め持つておくことができるには、その一つの方向性に看護学生と地域高齢者との世代間交流を推進できる力量形成が必要であると考えられる。

よって、地域高齢者のヘルスプロモーションと地域の活性化及び看護学生の高齢者理解の深化、健康課題と地域特性を査定する能力の育成を図ることを目的に本研究に取り組んだ。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護学生と地域高齢者との世代間交流プログラムを考案し、さらに、考案したプログラムの効果を検討することであった。なお、世代間交流プログラムの定義としては、国際世代間交流協会による「世代間交流プログラムは社会に存在する様々な資源や知識・知恵を高齢者世代と若年世代の人々で交換し合い、個々人や社会の役に立つものにしていくための意図的・継続的な仕掛けである」がよく知られている⁴⁾。

3. 研究の方法

「先行文献の検討」⁵⁾と、「地域高齢者と看護学生へのニーズ調査」の結果をもとに世代間交流プログラムを考案した。考案した世代間交流プログラムを用いた看護学生と地域高齢者との交流活動の実施を通じて、世代間交流プログラムの効果を検討した。

対象となった地域高齢者はS県K市A公民館に通っていた高齢者の中、3年間の世代間交流プログラムに継続的に参加することが

可能な30名の方々とした。また、対象となった看護学生はS県B大学看護学科4年次生の中から毎年研究参加の同意が得られた5名の学生とした。交流活動は1年目には4回、2年目と3年目には10回ずつと設定し、A公民館及びB大学で実施した。交流活動の内容としては、「健康のコツについて話し合いましょう」「昔の思い出について語りましょう」「歌で声を出しましょう」「グランドゴルフを学びましょう」「料理を楽しみましょう」「体力測定で自分の身体に関心を向けましょう」「介護方法を学びましょう」などのものがあつた(写真・写真)。毎回の交流活動の実施時間は2時間であった。

世代間交流プログラムの効果評価にあたり、握力と長座体前屈、開眼片足立ちについての体力測定の他に、2014年に独立長寿医療研究センター研究所に開発された高次生活機能を測定するJST(Japan Science and Technology Agency)版活動能力指標による質問紙調査も毎年1回実施した。JST版活動能力指標は「新機器利用」「情報収集」「生活マネジメント」「社会参加」という4側面からの4項目ずつ計16項目からなっている。得点は0~16点となり、点数が高いほど、高次生活機能が高いと示される⁶⁾。また、交流プログラムに対する感想や意見などを把握するために毎回の交流活動が終了した後、対象となった地域高齢者と看護学生へのアンケート調査も実施した。

なお、本研究は埼玉県立大学論理委員会の審査を受け、承認を得てから実施した(承認番号:27036)。



写真 健康のコツに関する話し合いの場面



写真 介護方法を学ぶ際の場面

4. 研究成果

1) 地域高齢者の属性

30名の対象者のうち、女性は24名、男性は6名であり、平均年齢は74歳であった。夫婦のみの世帯は5割、持病をもつ者は6割、趣味のある者は8割であった。また、地域活動に参加している者は5割を占めていた。毎回の交流活動に8割以上の者が参加していた。

2) 調査結果

体力測定では、3年間の握力の平均得点が5.77、長座体前屈の平均得点が7.26、開眼片足立ちの平均得点が7.38であった。年間の測定値に顕著な変化が見られなかった。また、JST版活動能力指標による調査では、平均得点が11.21であり、全国標準値(9.7±4.2)⁷⁾より高かった。さらに交流活動終了後のアンケート調査結果により地域高齢者及び看護学生からの世代間交流プログラムへの評価も伺えた。

(1) 地域高齢者からの評価

交流活動の参加で「楽しかった」と回答した方が9割以上であった。

また、自由記述内容の分析から、「世代間交流は新鮮でした」「自然に笑えて、大きく発声できて良かった」「若い力をもらった感じで楽しかった」「昔の遊びの話や今現在の生活の仕方や健康などの様々な話が出て参考になった」「健康寿命が大切なことを話し合った」などの【看護学生との交流の良さ】、「とても親切で真面目に学生生活を送っていると思った」「孫のような人達、皆明るくて元気をたくさんいただいた」「さすがに大学生で能力の高さに感心した」などの【看護学生への理解】、「今後も企画してほしい」「健康に関するものであればまた参加したいと思う」などの【交流活動の継続希望】が示された。更に「認知症のことや障害のことなどについても聞きたい」などの【医療知識への期待】も見出された。

(2) 看護学生からの評価

3年間の交流活動に参加した看護学生は計19名であった。地域高齢者との交流を通して、看護学生が学び取ったこととして、「地域とのつながりを持ち、サークルなどに参加して活動的に過ごしている高齢者がたくさんいると改めて分かった」「高齢者は若い人とたくさん話したいという人が多いと分かった」などの【地域高齢者への理解】、「健康の秘訣もそうだし、人生や生き方についてもたくさん学べた」「私たちに役立つ考え方を伝えられるようなことをたくさん教えていただきとても参考になった」などの【地域高齢者がもつ知恵への感知】、「お互いにパワーをもらえ、良い時間を過ごせた」「もっとこのような場がたくさんできればいいと感じた」などの【世代間交流の意義への認識】、「参加者の中にはテーマを持って討論したいと考えている方がおり、交流会に対する思いのズレを感じた」「もっと難しいことや聞きたいことを積極的に尋ねたほうがよいのだと学ん

だ」などの【交流活動企画への反省】が示された。

以上のように本研究で考案した世代間交流プログラムは先行文献の検討結果と世代間交流のニーズ調査結果に基づいたものである上に、参加者であった地域高齢者と看護学生の双方からの評価も得られたことにより、プログラムの効果が確認できたと考えられる。また、世代間交流活動の参加により、地域高齢者の満足感のみならず、交流活動への参加意欲の向上も見られた。さらに地域高齢者の健康管理への関心および、疾病予防を視野に入れたセルフケア方法への希求も伺えたため、今後高齢者の要望に適した、医師を含めた多職種連携による交流内容の検討に取り組んでいく必要があると考えられる。

一方、世代間交流活動の参加により、看護学生の地域高齢者に対する理解の深まりのみならず、相互交流がもたらす効果への認識も強化された。超高齢社会の情勢に応じた健康増進につながる看護学生としてのスキルを活かした交流活動をよりいっそう進めるべきであるとする。なお、地域包括ケアシステムの未来を見据えた上での世代間交流による叡智の創出に向けても、本研究における世代間交流プログラムの精練と普及を図っていくことが必要不可欠であるといえる。

また、本研究に協力してくださった対象高齢者は持病を持ちながらも趣味を大事にしつつ地域での生活を過ごしている様子が伺えた。さらに対象高齢者の方々は本交流プログラムを含め、様々な地域活動や社会活動に積極的に参加することで体力が維持され、老化による心身機能の低下予防、即ち、フレイル・サルコペニア予防につながっていることも考えられる。特に高次生活機能に関するJST版活動能力指標評価結果の合計値が全国標準値より上回ったことから対象高齢者は「手段的自立」「知的能動性」「社会的役割」での優れた能力を有していることも示された。今後、地域高齢者のヘルスプロモーションおよび地域の活性化に向けて、高度な活動能力をもつ地域高齢者のリーダーシップ発揮に関する看護支援が期待される。

<引用文献>

- 1) 厚生労働統計協会、厚生指針 国民衛生の動向、64(9)、2017/2018、100-109
- 2) 森田智子、江川隆子、笠岡和子他、A町内会の高齢者の老人力(知恵・経験・技)に関する実態調査 県民運動実践活動より一、関西看護医療大学紀要、4(1)、2012、14-22
- 3) 日本看護系大学協議会報告、大学卒業時

到達度の評価手法開発のための調査研究報告書、平成 23 年度文部科学省 大学における医療人養成推進等委託事業、2012

- 4) 草野篤子編、世代間交流学の創造(初版)、あけび書房(株)、東京、2010
- 5) 張平平、大塚真理子、辻玲子他、看護学生と地域高齢者との世代間交流がもたらした成果 文献研究を通して一、埼玉県立大学紀要、15、2013、43-51
- 6) 増井幸恵、現代高齢者の生活特性に配慮した新たな活動能力指標の開発(その5)、活動能力指標(JST版)の信頼性と妥当性、日本老年社会科学会第56回大会、2014、6-7
- 7) 鈴木隆雄、吉田英世、稲垣宏樹他、JST版活動能力指標利用マニュアル、第1版、2014.6

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

林裕栄、武田美津代、張平平、畔上光代、水間夏子、木村伸子、福田彩子、地域高齢者と看護学生の世代間交流に関する研究、医療福祉科学、査読有、No.7、2017、pp.59-65、

稲木あい、張平平：地域高齢者が考える最期の迎え方に関する日中比較研究、保健医療福祉科学、査読有、No.7、2017、pp.1-6、

張平平、林裕栄、看護学生と地域高齢者との世代間交流プログラムがもたらす効果に関する研究、地域ケアリング、査読無、Vol. 19、No.13、2017、pp. 100-102、

https://ci.nii.ac.jp/els/contentsci_nii_20180514142705.pdf?id=ART0010255776

早坂玉緒、張平平、大塚真理子、自主グループにおける高齢者リーダーの継続的な役割遂行に関する要因 - 介護予防(一次予防事業)の取り組みから -、千葉看護学会誌、査読有、Vol. 21、No.2、2016、pp.17-23、

[学会発表](計6件)

Hiroe, Hayashi, Pingping Zhang, Effects of an intergenerational exchange program between nursing

students and community healthy elderly, 7th INTERNATIONAL CONFERENCE ON FRAILTY & SARCOPENIA RESEARCH (ICFSR2018), 2018

Pingping Zhang, Hiroe Hayashi, Hideo Sato, Takeshi Yamashita, Higher-level functional capacity among the community-dwelling elderly in Japan. International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG), 2017

Pingping Zhang, Ai Inagi, Comparative research on thoughts toward death of community-dwelling elderly in Japan and China. International Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR), 2016

林裕栄、張平平、畔上光代、須賀夏子他、地域高齢者と看護学生との世代間交流プログラムの試行 参加した高齢者の交流への意欲、第18回日本在宅医学会大会・第21回日本在宅ケア学会学術集会合同大会、2016

Hiroe Hayashi, Mitsuyo Takeda, Pingping Zhang, Mitsuyo Azegami, Natsuko Suka, An intergenerational program for local elderly individuals and nursing students. 19th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars), 2016

Pingping Zhang, Hiroe Hayashi, Nursing care for community-dwelling elders: Review of Japanese nursing literature, 19th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars), 2016

6. 研究組織

(1)研究代表者

張 平平 (ZHANG, Pingping)
埼玉県立大学保健医療福祉学部・准教授
研究者番号：90436345

(2)研究分担者

林 裕栄 (HAYASHI, Hiroe)
埼玉県立大学保健医療福祉学部・教授
研究者番号：50214466

(3)研究協力者

佐藤 秀雄 (SATO, Hideo)

(4)研究協力者

山下 剛史 (YAMASHITA, Takeshi)